大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 每月一回十五日發行
大正十四年八月十日印刷納本 大正十四年八月十五日發行

光

第四十四輯
大正十四年八月

◆燈影小塾について……西田天香
◆光は何處より來る……足利淨圓
◆雰圍氣は語る……谷口雅春
◆ある對話……いさう生

同人 懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◆高尾山の歎……磯山松男
◆武藏野の菩薩境……鈴木五郎
◆クリスト教社會主義史(六)……松下吉衛

一燈園・宣光社

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の淸規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとよく言辭の勞し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

燈影小塾について

西田天香

滋賀縣の栗田郡長の懇請を受けて、草津の女學校で郡内の人の爲めに、講演を聽いて貰ふたあと、その控室である、はれやかな二間つゞきの新建の青い疊の上に、すゝめられるまゝに坐布團を一寸いざらせて坐りました。丁度その室は學校の前庭に向ひて、ながめも廣々としてをり、まづい私しの話しも割合にしつくり落付いて、はなせたのでうれしい氣持でくつろいだ。

私の話しはいつも草稿がない、唯聽きにきて下さつた方々のお顔をながめながら話す。どこから話しをたぐり出すか、立つまでは無論のこと、時には立つたあとでも見當のつかぬこともある。農業の方が多いとその樣な方にふれ、實業家教育家宗教家の方らしいと見ると、その方々の問題にわたり、婦人の方が交つておいでになると、又話頭がそちらにむくといふ風で、いはゞ聽いて下さる人が話させてくれるやうな感じがする。何分自分に何の專門といふものはなし、學識は持たず、珍敷考へも出ない。唯一つの新生涯から見て、あらゆる問題にふれてゆく。ゆはゆる盲人蛇におぢずと云ふ風にゆく。勿論敎へるといふ考へもなし説法といふでもなし。こんなこともあつた、あの樣な問題もきいたと云ふ風に、あらゆるゆきつまつた問題が新生涯で整理の出來ていつた事を話させてもらふ。物知り

でない有難さには、小六ヶ敷言葉は出ない。地方の婦人の方にも商店の丁稚さんにも了解してもらへる話しでありながら、又立派な智識階級の方にも觸れてはゆく。如何なる人も御飯をたべぬ人はないと同樣に、生活をせぬ人はない。それは同時に問題のない人はないといふ事になる。問題のある人には園生活は屹度觸れる。たとへその話しが平凡であつても、否むしろ平凡な日々の生活のことほど觸れやすい。いつのまにか話しをしてゐる私しと、聽いて下さるかたが一つになつてゐる事もある。國訛りも出れば手も動き出す。私しが首を動かすと、處々に同じ樣に「ソーダソノ通リダ」と首をたてに動かしてくれる方が隨分ある。こうなると私はいつの間にか、話中のものとなつて時間の立つのを忘れてしまひます。

此日の話しは、私が現に今寄寓させてもらうて居ます燈影小塾の事に及んだ。京都烏丸頭下總町停留場のすぐ前の家で昨年の十月から、家内も共にそこにおいて貰ふて居ますが、家は一寸大きな家で、もとは大學の先生のお建てになつたものらしく、見晴しもあり住みよい家です。隣りに電氣の變壓所の大きなのがあつて、共音響のするのが只一つの缺點でありますが、二階の正面が比叡山であるので入れ合せがつく。表ての右に燈影小塾、左に宣光社、回光社と三つ札がかゝつてあります。坐敷、小間、離れ、二階に大小二間があつて六十帖程疊が敷ける。よこのうらに小さな納屋があり、私はその隣りに更らに小さい三疊の室があつて、今でももらひものゝ瓦が半分より上つてない位のもの。その室に私がよばれて住み、お客樣にもあひ、又手紙の整理もさせて貰ふて居るのです云々。といふ樣なことも話したのであります。

郡長さんは何か用事があつて、まだ講演場の方から歸つてきられず。一人で膝をくずして新聞をよんでゐると、一人の女の敎師さんがお茶をもつてきて下さつた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『有がとう、色々お世話になります。』

とお禮を云ふと、その人は改まつて、

『先生、妾しはおわびをせねばなりませぬ。』

はてなあ！何だろう。一度も嘗て知りあつた人でもなし、私におわびつて何だらうと思ひながら、

『何をで御座います。』

『先生、すまぬ事を想像したり又申した事があるのです。今燈影小塾のおはなしのうちに、その家は先生のお住ひになる家でなくて、托鉢しておいでの家、それにそのうちのお住居の場所は小さい納屋のとなりの更らに小さい帖半寮とか申す三帖が、先生御夫婦の書齋も應接間も寢室も兼ねての處と伺つて、妾はあゝすまない事を想像しました申したと思ひました。せめてその正直な事を赤裸々に申しあげておわびだけしたいと思ふのであります。』

『めつそうな。何の事かはしりませぬが、おわびそうばはない。御心配下さるな。しかし何の事か承つてよければきかせて下さい。參考にもなる。その樣にかたくならないで、わらひながら話して下さい。』

『イヽエ、ほんとにすみませぬ』。

何か御自分がしきりに內省的に、最もまじめに考へて、『實は』と口をきられてのはなし。

『實は妾先日その燈影小塾とやらのお家の向ひに居りました。妾のお友達のお宅が丁度そのお向ひてあります。攝政の宮殿下が植物園へお成りの時に、拜觀するやうにとよばれて參つたのであります。

お通りの少し以前、新建の二階に立ちながら叡山の景色をながめ、近く眼の下にお家の前をも見て居りますと、五十位の方が三四の若い方達と一しよに、お家の内から出て見へて、やがて又おはいりになつたのです。妾の友達があの人が一燈園の天香さんよと申しましたので、妾はまあそうと實は始めて他所ながら先生を存じ上げたのです……。』

『あゝそうでしたか。ほんに此頃お向ひに新建の立派なお家が出來ましたね。たしかお寺の様にもきいてゐますが。』

『先生、そうおつしやつては妾の話しがとぎれます。只先生を他所ながら見ましたそれだけならば問題にはなりませぬ。妾は其時失禮な事を想像しました友達にいふてしまつたのです。』

『なるほど、それは何でしたか。』

『先生どうぞおゆるし下さい。妾は其時、まあ先生ては、無一物〳〵といふていながら、此頃は大きな家に住んでいなさる事よ!と思ひこみ、それからそれへとそれにふさわしいすまない想像をたくましうしたのです。そうしてそれを友達にまで申してしまひましたのです。只今お話しをきかせてもらひ、それが飛んでもない誤解であり、又如何にも一寸想像のつかぬ内容をおもちになつてゐて、チャント無一物と無盡藏の調和があつてるのにおどろきました。それを自分の今の生涯の落付かなさ、物もち乍らの不安、家庭はありながら、物足らぬ思ひの暮し方に比較しますと、如何にも先生の生活がなつかしう尊う思はれますのです。そうすると、先日の妾の想像と申しはなした事がすまなくなり、まあどうしようかと、身をきる様な氣持がするのです。先生、どうぞおゆるし下さいませ。妾はこれ

だけ云わせてもらへばせい〳〵します。そうしてあとは妾の現在の生活をどうにかせねばならぬと思ひますので、先生に敎へて頂きたいと思ふのであります。』

『なるほど、それはまた案外な、そうして至極眞面目なお丁寧な御挨拶です。しかし感心いたしました。正直なあなたのお話しをきくと私の方がはづかしい。そうした事の想像や申はなす事は私も度々あります。私はあなたの樣に正直に一々おわびをせぬだけなを惡い。かへつて私がはづかしくなります』。

此女の先生は、夜の講演も殘つて聞いて吳れられた。大津迄汽車にも同車して、新生涯にゆく事に付て色々聞かれました。私は必らずしも現職を去らないでも、此心持ちを或程度迄もてます、又或程度迄は實行出來ます旨を申して大津驛で分れましたが、あとで私は獨り考へ込みました。此女の先生のみならず多くの方に、私の大小の事を色々と思はれてゐる事であろう。これは過分の勿體なさである。又その內容を知つてもらわぬ爲めに、善くも見え過ぎ惡くも見え過ぎる。何れにしてもすまない事だらけであるのを懺悔せずには居らない氣がしました。

好んでする說明は云ひわけになるが、又かよふに生活內容を聽いてもらふと、此女の先生の樣に了解と新らしい修養とをされてよろこばれる事にもなるので、私は此機會に今私のすまわせて貰ふて居る燈影小塾の事について知つてもらふやうにと此一文を書かせてもらひました。

昨年の九月の事であつた。家內が久敷托鉢させて貰ふて居て隨分色々お世話にもなつた杉本さんと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

云ふおうちをおひまを貰ふことにした。それは法喜（かない）が五年にわたつて托鉢させてもらふたお家で、その部屋とて頂いたうらの二間はいつのまにか、私の應接間となり、小さい一燈園の様に隨分澤山なお客様の來往がありました。餘程此杉本家の主人は立派な方で私達の立場に對しても了解があり、極めて自由にさせてもらふて居たのであります。

一體一燈園の托鉢は不離不卽であり、一つ所に執着してもわるし、と云ふて一つ所に居るのがいやでも困るのです。當番のさしづをそのまゝに一日がわりに行雲流水の様にゆこうとも又何年にわたつて落付て居ろうと、何れも自分の『我』を出さぬがよい。隨所に主となり、行く所として佳なりと、いふよふに無我の奉仕にならねばならぬのでありますが、若い女性の趣味やら感興できた方は、或時は考へにのみふけり、又は他の托鉢先きが批評したくなり、新らしい處々をあるきたい氣持のする事もある。私達は自分からしない事をおさせ申すわけにはゆかぬ。六ケ敷い事は分らいでも女のする事では、私の法喜（かない）にさきにやつてもらふ事にして居ります。西洋人の處へほんの一人ぽつちの托鉢をもしたり、又三日四日の小供のもりにもゆき、あらゆる事を托鉢してもらふたあとに、一燈園の炊事に、たしか一年半ばかり當番をしてもらふたあとの事。丁度杉本さんから賴まれて臺所の取締りの様なことをさせてもらわれました。こんどは先方様に必要あれば四五年やらせてもらつてみなさいと申しておきましたのが、それがとうご五年になつたのです。昨年の春、あまりに私のお客様も多く、殊に東京大震災後、宣光社が震災紀念に更らに下坐する事となつて、私の部屋へ轉じて來ました。それで私は庭の隅みの二帖の室まで退却して不相變事務を取つて居りましたが、あまりに表に迷惑をかけても

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

すます、丁度五年にもなりますから、おひまを貰へたらと申しましたのが、丁度九月に實現したのであります。

私達はいつもかうしたときに一度づゝ路頭に歸らせてもらひます。路頭といへばいかにも大げさな云ひよふの様でもあり、また何だか形式の様にも聞えますが、實感で又實際的なものであります。本來我家を持たぬにも拘らず、只の一度も野宿したことのない難有さは、それからそれへと托鉢先きを持つて居るからでありますが、それに若しも路頭といふ一つの根據を失ひますと、ゆく托鉢がどこかにいやしくなり、また淋しくなるものです。『托鉢させてくれる人がなかつたらどうなるか』などゝ思ふ心地が、たとへうの毛の先きほどでもあつたなら淋しいものです。又それならたゞの奉公人とかわりがない。法喜（かない）の心的内容はどの邊まで惠まれゐるか、たしかな事はわかりませぬが、たゞ此人は無條件で私についてくるといふ。すると私が落付いて居ればこの人はどこでも落付けるはづであるから此邊は樂である。

私は懺悔の生活にも書いた通り、もと〳〵路頭から此生活が生れたのである爲めに、そこに一番の落付がある。路頭の落付！いかにも一寸無理な様に思へる。私自身にも暫く其味をわすれると、無理な様な感じがする位。けれ共私は一番落付きます。輕裝してヒヨツトからだを屋外に出して見ると、前に經驗した心のたしかさがすぐに全身にあふれてくる。蓮月尼の『宿かさぬつれなき人のなさけにておぼろ月夜の花の下伏し』の歌道も我物となる。此頃評判の高い木喰五行上人の『一宿を願ふて見

ても庄やさま、はつと〳〵で一石六斗』の歌のおもしろさも他處の事のやうではない。一燈園にたとへ百何十人の同人があり、宣光社には色々わづらわしい仕事があるとしても、本來自分の家族の爲めにあるのでなく。いわば皆娑婆といふ旅先きのたのまれであると云ふことに本來の出發がなつてある。からして何々の機會にその荷をおろして、輕く裝つて一歩出ると、やれ〳〵といふ氣持がする。此實感はまことに此生活の大切な起調である。人が信じやうが信じまいが、此實感は私にははなされぬものである。私がはなさぬといふよりは、そこから私が生れたといふが當る。宿れよふが又宿れまいが、ひもじかろが寒かろが、飢へて苦しくても寒うてふるへても、それは此肉身のことでほんとの我ではない、といふ様なものがどこかにある。飢へぬ先き、凍へぬ前へに與へられて勿體ない位であるから、そんなノンキな事を云ふのだとも見へるかも知れぬが、もしこれがなかつたらば、私の生活は、こふは生れてこないのである。

私はこふした事と聯らくしてゞあるか、人の死に對する哀愁の情がたらぬ。是は時々他處目にも不人情に見へるかと思ふが正直な告白である。二男の死んだときも靜かに見守つてその最後の一息を合掌しつゝ『あゝ御苦勞様であつた』とは讃へたが、世の常の様にかなしい情が起らなかつた。先日京都ホテルであつた、イー●エー●ゴールドン夫人の密葬、前の告別式にも、その大理石の様な奇麗な死顔を拜んだ時、ヲー奇麗にと微笑をもらした。それは主人の平素を知りゐる私にはむしろその人の大往生を讃めたゝへた實感である。不圖周圍を見まわしてから、つゝまやかに伏し目になつた位である。私はいつもその人のたましひを見るくせがあるのか、その魂が遠く大きく天上にあるを直覺する

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

とき『あゝ御苦勞樣であつた』となるのである。此大きな永遠が我であるといふ處から出發せなくては、一燈園の生活は無理になる。永遠の生命を我とすることの出來る惠みをうけて居ればこそ、此肉身の死を前生涯の樣にかなしまぬ。からして七十六才で死なれたゴールドン夫人も廿才で死んだ次男の透石も、おひかりの道をたどつた同じ天壽の人の樣に見える。おひかりにふれぬ百年の瓦礫の生涯は眞面目な一日の托鉢にも劣るのである。前者は只に淨土を莊嚴せぬのみか、反つて淨土をこわして居る、後者は反對に穢土を淨めて天國に歸つてゆく。私は瓦礫の百年は短命で托鉢の一日は永息であると思ふ。其實感が此生活を產み出した。

時々私は次の樣に云ふ人があると聞く。園の生活をして悶えはとれた、からだは丈夫になつた、下座も覺えた、さゝげたはたらきのうれしさも知つた、謙遜なきもちも起つた、始めは家からも誤解されたが、引つゞき家に起る悶えがおかげて消へて、いつのまにか自分も性格もわかつた事は事實である。併し家庭を持ちかけて見ると、どうしても園生活は無理になる。最後は何だか天香さんの話しに無理があるやうにおもへる。家庭を持ち子供が出來る事なとを思ふと、天香さんの話しはうなづかれぬと云ふ人が少くないと云ふことである。私は此話しをそう單純には受取らぬ。それはその人に直接會て話しをきくと、その時のその人から又別の心がわき出てくる、妙な事實を幾度も見て居るから。けれども躓きたい氣持の出るときは、互ひに躓きたい他の人の氣持をさそい出す。弱くなるときは弱い話を眞理と見る。尤の事でもある。そふ思ふ時は仕方がない。役にたつた事だけを受入れて、無理になる事はせないで往つてもらつて居る。それを墮落とも何とも思はぬ。矢張私が足らぬからである。

併し別に私は思ふ。此弱い心はどこから出るか、肉身の亡くなるとき此心はどこにあるか、私はもし此夢の樣な心を中心とするときには、それからそれへと不安ははてしなくひろがるのです。さうしてそれにたへきれない。からしてそこで南無阿彌陀佛する、そこで祈る、そこで落付いて永遠の我に歸らせてもらふ、此時その夢のよふなよわい心はきへて居ます。親鸞上人が日野左衞門の家に宿りかねて、ふる雪に石を枕にしながら喜ばれたのもこの心もちだろうと思ふ。敢然とやつて見れば喜べぬものではない、それはそれほど無理にはならぬ。只恐るべきは無理にすると思はすその臆病の心である。私はおかげでわりに樂に此路頭に落付ける。私ばかりでない。今では園生活をしてゐられる同人のうちにも少からず此實驗を持つて居る人がある。

路頭の二字から話しが大分橫道にそれましたが、私はかうしたわけから家內三人連れで、久振りに路頭に歸らせてもらひました。ある日私だけ先づ京の町をはづれて路頭に立つた、西へ〳〵とゆくうちにたまらぬゆつたりした心地がする。夕暮れに小さい稻荷神社の小石段に腰かけて、天華香洞錄を出し、此安らかな氣持ちを書かうと思ひ、藪近くの蚊の足にむらがるを追ひながら、矢立を出した事でした。足は次ぎの太秦（ウツマサ）についた。太秦（ウツマサ）の廣隆寺の和尙さまは親しくしてもらひ托鉢先である、園の當番が私の入牢がわりの場所として相談してあつた爲めに、よく來たと丁寧にされました。勿體ない、今日からはしばらく謙愼をしたいのですからと、厚意を謝して十輪院（茶所）にとめてもらふた。空屋でせまい處であるが、路頭の私にはあまりに廣いきもちがする。入口の二尺巾の椽にころがつてねた。その心安さ一寸說明は出來かねる。混雜な生活をして居ながらうるさくて逃げたのではな

い。世を混雜さゝない丈けの生活にゐて、他にたのまれて色々の事を引受け托鉢させてもらふたのが、しばらく休ませてもらふた氣持である。

十輪院の安居も永くは休ませてもらへなんだ。澤山な世の人の問題は、私を矢張京都におく必要があつた。私等の立場をよく了解し、すいもあまいも味ふた光友の先輩が、一軒の家をかりて、丁寧に行届いた祈りを込めて、私にその家を預れとの事であつたが、それが即ち此燈影小塾であるのです。

私は前々から思ふてゐる。それは人が、一燈園の生活は分つたが、宣光社を試みてほしい、との要求に對して、機會があつたら少しづゝでも試みたいとのことである。横に地下水の様に流れて、何等かのお役に立つ一燈園の生涯は、それを必要とする人の、必要とする時だけは重寶がられるが私達他の重寶がられる處へ往つてゐて連續的になつてゐても、必要のない時の人は『あれだけでも』と心淋しう思はれる。『縦(たて)に家を持つて見てもらわねば』と云はれる事もある。又同人のうちにも、家を持ちたいとは思はないでも、『預けられたらどうするかを試みてほしい』と云ふ要求もある。丁度少しもさわりのない了解ある光友方が、家をおひかりにさゝげられた此機會に、一燈園だけでは扱ひかねる人達をも預り、園の同人にも托鉢してもらひ、暫くでも預らせて貰ふて見ようとなつたのである。

此燈影小塾の使命は種々雜多のものが含まれてゐる。『今の學校の様でない小さな塾』、『今の教會及寺の様でない小さな精舍』、『今の普通の生存競爭にならぬ經濟生活』といふ様なものを極手近い事から試驗して見たいのである。淨い心で預けられた家の外、何の資本も持たないで、又定まつた收入も

なくても、ゆつたりと、家庭的にくらせる上に、ほんとの塾ほんとの寺や教會の様な仕事に、ほんとの生産の事を合せてやらせてもらふて見ようとなつたのである。

一燈園の生活者が、若しも家を預つたとすれば、どの様に扱ふものか。一寸外見は普通と變らないでも、普通にあり勝ちな不安がなく。右の三つの要求もみたされて、道元禪師の所謂、在家の學佛道場とするには、どふ扱ふものかを試みやうとしたのであつた。

丁度先月で滿九ヶ月となつた。一年の四分の三ではあるが、私にはたしかに手答へがあつて、豫想を少しもうらぎらないのみならず、愈おひかりの生涯を確める事が出來たので、私は喜んでゐます。是は何れまとめて愛表する『宣光社とは何ぞや』中の一材料にまとめますが、玆には極めて大まかな事だけ書いて、先きの女の先生に成程とおもわせた事だけを書かせてもらふ事にする。

第一の特色は、何時立退く様な事が起つても少しも困らぬ用意のあることです。蓮如上人の五法目の和讃中に大阪の御文章と云ふがある。『若しむつかしき題目なんどあらんときは速かに熱心のこゝろをやめて退出すべきものなり云々』とある。是は宗敎家の最も必要な事であるが、事實は中々にそうはゆかぬ。在家の生活と同じ様に家族があり、こべりついてしまへば立退くそうばか、反て六ケしき題目を造り出さねばならぬやうになり勝である。それを澤山見せつけられたからとて様々の無理がそこから出るのを聞きますから、若しも私達が『此家立退きたくない』などと針の先ほどでも思ふならば、世間の寺の檀家にこびる形ともなり、又金もらはねばならぬ事にもなる。そんな事なら何のたしにもならぬ。塾は仕事はする、するからお供養もある、それで米買ふ味噌かふ。これら、一寸見は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

で、居たい喰ひたいためにははたらかぬ。そこに先後の非常な違ひがある。『預りもの丶家なれば役に立つ事ならば何なりとお使ひ下さい、私等はいつ他へ參つてとまつてもよろしい』といふ樣な氣持をいつも持つて預つてゐる。人の供養を受けはする。けれ共それを私事には用いまいと。大體からした心得で預つて住んで見てが、幸ひに少しも足らぬ事はない。昨年の十月から、此一軒の家のうちで隨分色々の人が生活ぐるめの信念をうへつけられて歸られた。それがみな此生活の實際と一燈園生活の眞髓に觸れられたからである。『ありがたい』といふても色々ある。玆では生活の根本的改善むしろ復活をよろこんでゆかれる。かようになるのは、現に今試みてゐる生活が手本になつて居るからである。若し此生活の見本なしであつたなら、如何に說法しても、それはたゞ心だけの安心に終るに相違がない。人の數は二十人前後くらしてゐる。光友の希望と一般の希望との間に立つて、此家を見付け出し、色々順序を整へてくれたのは保太郎さんで、家の借主は河井さんであるけれ共、塾といふ氣持の世話は相さんに賴んだ。それで此人が世帶主になつてある。當番もある。内には色々の仕事もある。そうして夫婦ものが四組もゐる。それで仲よく暮してゐる。

何の商買をはじめても、石の上にも三年といふことがある。ことに此頃のやうに不景氣では、無事な家でもつぶれてゆき、もうかる家でも食ひ込むときに、燈影小塾は、誰れが眼むいて力みもせず、また心をマラソン競爭の樣にあせらないにも拘らず、何の不自由もなくくらせてゆく。供養されてある家賃は八拾圓であるが、これも塾の積立で拂へぬ事もないらしい。

只食つたゞけなら、何んでもないと云ふ人もあろう。私しの目的はそこにはない。日々のくらし方が普通のそれとは雲泥の差がある。誰れにでも解放出來て、平和で、無執着に近うて、幾家族も仲ようくらせて、今の世に出來ないと銘打つてゐる信仰と生活と一致が出來て、少しも分裂せない處が有難い。少しも世におもねらず、あらそひ心なく、誰れが格別の收入ある技術あるでなし、何人もきまつた常收入なしにその日〳〵を感謝しながら、加ふるに他の人々のためにも、お役にたゝせてもらひ乍ら、無事にくらせて往ける處に興味をもつ。此生活ならば一般の水平的運動の方々にもあまり非難は受けまいとおもふ。資本主義の弊害は見たくともない。物質的社會主義の弊害も少しもない。そうして縦にチャンと家を持つてゆかれるのです。

第二の特色は、主もなる人程下に居ることである。先きの女の先生の想像のはづれたのも是である。私の部屋は裏の納屋のつぎたし小屋である。『起きて半疊寝て一帖』と云ふ諺に因みて、帖半寮と名をつけた。同人中の女性のうち相當の年輩者が四人あつて、もうどうやら園生活で終始をするらしい。行雲流水の生活であつても、一寸止まる場所があつても差支はない。この帖半寮をその爲めに建てたどこへでも持つて往ける様にしてある位なものである。私の法喜(かない)もその内の一人として、かわる〳〵當番をすることになつてゐる。四人に六疊一間、その半分丈の小屋を建てゝ只三帖の天井なし、瓦はもらひ合せの分だけを載せて、外側は杉皮のまゝである。そこへ私は太秦(ウツマサ)から托鉢してゐる事になつてゐる。園外の了解ある光友達が、他の方々の爲めに、おひかりに捧げられる間、私は路頭から預りにくる。それが私しの此家への托鉢振りである。『天香さんも此頃は大きな家に住まれるやう

になつたものだ』との、女の先生の想像が、まつさかさまになつたのは、その事を聞かれた爲めであつたのである。

相さんが他に托鉢するやうになつてから朝夕の勤行は、立山さんといふ方にたのんである。此人は、眞家の僧侶の方。四五年前より園生活をして、今では可成に古參の人、越後の相當の實業家の娘で、是も三四年此生活をした人と、園で結婚されたのは、昨年の一月二日の夜でしたが、毎日のお仕事は下駄の直しが專門で、關係の同人及托鉢先きに托鉢半分の仕事をしてゐられます。晝はお仕事朝夕は勤行。此頃の一般の下駄の齒入などは、割合ひに親切にせない樣のうわさを聞くが、立山さんは少し傾いてへつた齒は、切落し齒くそをとりして、是はまだ入れ直すには勿體ないから、もそつとはいて頂きたい、へいおわしは頂かないでもよろしい、へイ、へイ……南むあみだと合掌すると云ふ調子である。商買やらお說教やら分らない。托鉢先きの家の人は、へエ……ありがたい肝心ですな……といふ樣な事にもなる。自分々々の生活が金のかゝらぬ樣になつてあるから、これでも暮しがゆつたりたつてゆく。全く同じ樣ではなくとも、同じ意氣で塾の生活者はそれ〳〵の特色で立つてゆく。これなら、あたりまいの生活でなくて、ほんとの寺の在家化したものと云ふても差支はない。此立山さんの家庭は、私等の夫婦の家の隣家であつて、ピアノの家と申します。小さい納屋の隣りの更らに小さい小屋が三疊の帖半寮で私の假家、その又隣りの更らに〳〵小さい小屋が、朝な〳〵の勤行の導師の立山さんの家庭。驚くなかれそれは二人が一疊半であるのです。ピアノの家となぜに云ふのかと問ふ人があると、立山さんは又へエ、、、と頭をなでられます。名はヒヨツト私がつけたので、緣起

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はピアノの箱を貰ふてきて、とりつけられたからでありあります。此人家へかいれば立派な一ヶ寺の住職さんであるものを。

八拾圓の家はあまり大きな家でもない。けれどもそこに二十二三人暮して、尙綽々として餘地があり、道のお客が四五人位とまられても一番の座敷でゆる／＼寢てもらへるのは、皆が下座を喜ぶからである。五十幾疊の疊の外の、納屋、小屋、ピアノ箱家に三夫婦すめる。そうして日々塾やら道場やら産業の（裁縫、造箱、雜誌、の三つの仕事も中にある）試みをさせてもらふてゐる。供養する園外の光友の心の清淨（寺、社會事業などに出す氣持とは全然異なつた最も撰練された清淨心、是も非常に參考にもなる）さに恥しからぬ事を要する。八拾圓丈を別にかせいで、それにあてる事は六ヶ敷事でもない。けれどもそのかせぎよりくるものよりは、此供養の心持ちが一段も二段も清淨なものである。此清淨心の濾過作用なくて、私は之れを預らぬ。何十萬圓かけた社會事業の建物、何百萬圓かけた殿堂がらん、私は其量だけではおひかりの道をまもる事が出來ぬ。量よりは質である。此光友の代表者から送られた手紙は、やゝともすればまじらんとすること微かな不純なものを濾過するに最も適當な、道を守りする法喜役の第一清淨心である。此家が明日返す事になつても問題でない。此清淨心の內容は、道を守る心のよい規範である。是も機會が塾したら知つて貰ふ時もあらう。是は塾外よりの事ながら、最も大切なる一つの特色である。

烏丸頭の下總町停留場を下車した處の黑板塀の一つの建物。表から見れば何でもない普通の生活。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

先般、私も日の御皇子を拜みたいと、塾の人等と門にたちしとき、二階の寺の表座敷から見下ろした女の先生が、『天香さんも大きな家に住む樣になつた』と見るに何の無理もない。私はいつのまにか我物顏に出入して居たのであろう。若しも私が出るにも入るにも敬虔な念をうしなわで、合掌み／＼居たならば、たとへ此家が寺の形をなさないでも、そんな誤解をさせはせまい。私は此女の先生にあやまられると汗が出る。けれども、大きな家の住居主となつたと極るには、別の內容をかように持つ。誤解されたのは私の不德であれ共、特殊の試みを成就させて居て下さるのは、皆の人にもあらわれたおひかりの力である。むりになつたら明日にもやめる。けれども私は大體は試驗ずみになつてゐる。宣光社の一つの試みなる、縱の家を持つてのおひかりの生涯は、たしかに手答へがあることを證明されてゐるのである。

十四、七、二、於塾

○本號表紙題字　例の燉煌壁畫の一隅にあるものからいたゞきました。蓋し參詣者が紀念のために自から刻んだものでございませう。

光は何處より來る

足利淨圓

いつたいあなたの云はれる光は何處に在るのですか。
光は聖なる世界の光景で超人間の世界にのみあるのです。
あなたの云はれる暗とは何を指すのですか。
暗は人間の心の光景であります。
そうすると光は神で人間は暗と云はれるのですか。
私の云ふ光と暗の對立は神と人間との對立であると云ふことになるのです。
一言にして云ふと光とはどんなものですか。
智と愛とのかがやきです。
暗とはどんなものですか。
盲目的な煩惱のことであります。
光と暗とはどう云ふ關係と交渉を持て居るとお考へなのですか。
それは神と人間との交渉がどう云ふやうになつて居るかと云ふ問題なのでしよう。これは古來幾多の人々によりて眞劍に考へられた問題であると思ひます。然してこれは大體に於て二つの形式になつて居るやうです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

それはどんな形式ですか。

甲は人間が神を求めて神を發見しようとすることで、乙は神が人間を求めて居るのであると見るのです。

あなたはどちらの形式で進んで居られますか。

私は甲の行方は無理であると思ひます。何故なれば、誰れでも少しこうしたことに經驗を持つて居られる人は感ずることであると思ひますが神は求むれば求むる程遠方に行つて居るので眞劍であるだけ神が遠方に離れて居ることを感ずるのであります。處が事實は盲目者が神を求めて居るので現に神と出會ふて居ても惠みを見る眼がつぶれて居るため神を見失ふて居るのである。神は大な理想なんぞのうちに居まさぬ。一番手近い處で毎日出會ふて居て然もそれを見失ふて居るのではないかと思ふ。こうした意味で私は古來の神を見ようとした人達の多くが失敗に終つたことが思はれるのである。叩けば開かれるとよく敎役者達は申しますが叩いても叩いてもこの門だけはなか〳〵開かれるものでないと思ふ。

乙の方になると神の方から人間の上に顯現せられると云ふ方式で目あきが盲目者の上に神の心を打明けて人間に見せようとして居る神の運動で、この神の運動が智と愛とのかたちに於て人間のうちに内在的生命として顯現するそしてその生命たるや其のまゝ人間を超越して人間以上の力となり生命となつて躍動する。神が下降して暗なる人間の生命となる處に神の神たる使命があると思ふ。

それがあなたはどうしておわかりになりますか、何かそれに對する確な證據でもありますか。

神の存在はよしそれが人間のうちに内在的生命となりて顯現せられてあつても私共はそれを直ちに認むることは出來ぬ。神はそのあかしとして神そのものゝ生命の全部を打出して南無阿彌陀佛と云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

御名に於て人間の上に顯現せられてあります。私は只だこの御名を通じて神の大願と大行とによる聖なる世界を見るのであります。

そうすると御名なしには聖なる世界にはわからぬと云はれるのですか。

そうです。私はこの御名が人間の上に顯現し現に明に躍動せられてあることをはつきりと見るものであります。

神はどう云ふやうに躍動せられてありますか。

吾等の拜む手、稱ふる口、聖なる世界を慕ふ心、皆神の顯現と躍動ではないでしようか。

神は今私の眞實の生命となつて私の合掌せる手の上に口に心に顯現せられてあると云ふことが信の人にはいつわりなき事實ではありますまいか。

○讀者諸君へ

本誌第四十三輯掲載の谷口雅春氏の『無相無縛の境涯へ』は昨年四月頃、當時氏が編輯せし『心靈界』の廣告を本誌に載せて呉れないかと賴んで、同氏より自分へ事情を打明けて來られた時の私信である。それが私信であるだけ一層實際生活に觸れてをり、奉仕者としての惱みが如實に描かれてゐて、大いに考へさすところのある暗示に富んだ文章になつてゐるので、特にその一部を發表させて頂いたのである。今では『心靈界』も廢刊になつてゐるし、氏と『心靈科學研究會』との間にも關係が無くなつてをり、氏の心境にも推移があるのである。讀者のかたに誤解のないやうに一言しておきます。(M生)

雰圍氣は語る

谷口雅春

天香さんが、郡是製糸の創立者たる波多野翁（その人は基督敎を信じた人で、信仰の力よく郡是製糸會社の今日をあらしめた人である）の紀念公開堂で、もう四五年も以前に講演をされたことがある。いろ〳〵爲になる話をきかして貰つたが、その時その講演をきいてゐた豫備海軍少佐の外山豊二さんが私に會つたときに確かに『天香さんはみたまの研げた人だと思ふ。見てゐると天香さんの頭の後ろに圓光が見えた』と云はれた。

わたしは天香さんの頭部から後光がほんとうに射してゐたか、どうだか、自分にはさうした所謂靈眼がないので、わからない。しかし天香さんが一種のやさしい、平和な、まどらかな角のない空氣をその周圍にたゞよはしてゐる人であるだけは感じ得た一人である。

誰にでも一種獨特な空氣――と云つて好いか、雰圍氣と云つて好いか、靈的波動と云つて好いか――を自己の身邊にたゞよはしてゐるものである。或る人の側へ行けば妙に氣むづかしくなる。或る人の側へ行けば妙に快活になる。或る人の側へ行けば妙に悒鬱になる。或る人は高潔ながら實に近寄りがたい雰圍氣をたゞよはしてゐるし、或る人は道德上から見ては惡人に近いやうな人であるけれども妙に

人を引きつけて離さない磁力のやうな雰圍氣をもつてゐる。

若し誰でもが、そのやつてゐる仕事は實に些末な取るに足らないこと——例へば庭掃きのやうな——でありながら周圍を淨化させて行くことが出來るならば、その淨化の力はどこから來るのであらうか。それは誰にでも出來るその詰らない仕事其ものから來るのではなくて、ほかから來るのでなくてはならない。それは恐らく——否、たしかに、その人が自己の身邊に漂はしてゐる雰圍氣から來るのであらう。

天香さんの『金的は射にくきもの』と云ふ感想文（本誌五月號）の中で、『現に往きつまつた問題になやまされる時に、その人の爲めにその場所で答へさせてもらふことなら、割合無難に言葉が出來る。その人も能くわかり喜んで貰ひ、それで心が明るくなり、時にはおひかりの偉大さを徹見される事さへある……云々』と云ふ言葉の中には多くの眞理があるやうに思はれる。吾々が何等か質問される、それに言葉で答へる——目に見えるだけではたゞそれだけの過程に過ぎないけれども、本當の理會——さとりと云つて好いほどの理會は、言葉や外形の一切を超越したところから來るものである。

メエテルリンクは靈魂は言葉で語るよりも、言葉と言葉との間のポーズで語ると云つたがそれは眞理であらう。だから一人の人に云つた通りのその言葉を、他の人にそつくり其儘受けついだとて、靈魂が語らなければ何にもならない。互ひの身邊に漂つてゐる雰圍氣が語らなければ何にもならない。

一燈園の奉仕者の仕事を目に見える能率だけで計つては本當のことは解らない。目に見える能率から云へば、工學技師は專門の工業に、文學者は專門の文學にたづさはつてゐれば好いのである。何も

工學技師が庭掃きをする必要もないし、文學者が便所掃除をする必要はない。實に眼に見える上から云へば、それは無駄な能率の浪費である。

けれども雰圍氣が語るならば、それは眼に見える仕事以上の大なる仕事をなすかも知れない。その人の周圍にどんな人でも平和にする偉大なる雰圍氣が漂つてゐるならば、その人の手先は庭の塵を掃いてゐようと、一層大なる仕事は隱れたる所にその人の雰圍氣によつて行はれつゝあるのである。

吾々の五官は或る極めて狹い範圍の波動（現在の科學では一切の物質又は實質は電子から出來てをり、電子はエーテル波動中の旋渦から出來てゐると云つてゐる）しか感ずることが出來ない。フラマリオン（先日死んだが大天文學者であると同時に心靈學者である）はその著『不可知』の中で云つてゐる――『吾等の耳によつて感ずることの出來る最後の極限の聽管（毎秒間三六八五〇回の波動に基因する）と、吾等の眼によつて感ずることの出來る最後の視覺（毎秒間四〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇回の波動に基因する）との中間には吾等は何ものをも感覺することは出來ないのである』と、これらの實に廣漠なる範圍の波動的存在は――それは究極的に云つて存在であるのだのに、吾々にはそれが存在でないかのやうに思はれてゐるのである。若し五官以上の感官が吾等に發達して呉ればそれは明かに感覺として感じられて來るべきである。例へば、假りに天香さんがその身邊に平和や愛の雰圍氣を漂はしてゐられたとする――吾々は唯それをばそれとなき漠然たる感じで感ずる。併し或る五官以上に視覺の發達した鋭感者がその雰圍氣を頭の周圍をめぐる圓光の形で眺めたと

云つても不思議ではないであらう。

近代の心靈學は此の身邊の雰圍氣をauraと稱して、その存在を肯定してゐる。それは寫眞機を利用して實驗することが出來るのである。メエテルリンクは云つてゐる——『靈的能力者が暗中に於て人間の靈的放射體を見ることが出來ると云ふことを發見したのはライヘンバッハをもつて嚆矢とする。彼は種々の實驗の結果、この靈的放射體の力が、被實驗者の感情及び心的狀態と共に變化することの證據をあげた。』

この靈的放射體——身邊にたゞよふ波動——の力がその人の感情及び心的狀態によつて變化すると云ふことは注目に値ひする。若し一燈園の奉仕者の仕事が、その手先でする瑣細な仕事そのものにあるのではなく、その雰圍氣で一層大なる仕事をすることにあるのであれば、奉仕者たるものは自己の身邊に漂ふ雰圍氣をして出來るだけ力強い、而かも平和と善と愛との放射體であるやうに修養しなければならない。大平和に安住する人の身邊にのみ強き平和の雰圍氣は漂ふ、大愛を心にいだく人の身體からのみ強き愛の雰圍氣は放射される。形よりも心である、所謂托鉢術に熟達した形ばかりの托鉢業者にはこの大平和、大愛の雰圍氣はのぞまれないであらう。

雰圍氣は語るばかりではなく、受動的に語られる。——換言すれば他から影響を受ける。ホルムス氏の著『實有とその顯現』にはこんな例を擧げてゐる——『或る極めて鋭感な靈能者の手をコップの水

に突込ませる。やがて靈能者はその手を水から擧げて室の彼方にやられる。それからコップの水の中に一本のピンが投げ込まれる。すると靈能者は恰もそのピンにて刺されたるかの如く痛みを感ずる』と。又同氏は別の例を擧げて『被實驗者から發する靈的放射體のごとく範圍内に寫眞機をおいて、寫眞機の板硝子に映つてゐる實驗者の兩手の映像の上を引搔くと、その被實驗者は忽ち泣き出した。そしてその肉體の手の上には現實的に搔傷が出來てゐた』と。

此れは異常に受動的に感じ易くなつた雰圍氣の實例であるが、或る程度まで人は自分の氣分感情を相手に映すだけではなく、相手から相手の氣分感情を映しかへされるのである。自已の有つてゐる平和と愛の雰圍氣が、弱いものであるならば、相手のもつてゐる不和や憎惡の雰圍氣に打ちまかされる――愛の天使であるべき奉仕者が、或る家へ這入つて行くと、どうしても愛するやうな氣持になれない場合はないであらうか。平和の天使であるべき托鉢者が或る家へ招かれて行つて、本當に落ち付きを感ずることが出來ないやうな場合はないであらうか。若しかゝる場合があるならば、其の人はその家又は家人のもつてゐる不和や不安の雰圍氣に打ちまかされたのである。かゝる場合奉仕者はどうすれば好いであらうか――何處までもおひかりへの祈りを深めて行かなくてはならない、相手の不和や不安の實在を見てはならない、そして神との接觸――おひかりとの交感――をはかつて心の平和と愛とを恢復しなくてはならない、心が全く神のほかの何ものをも感じないやうになるならばその人の平和と愛の雰圍氣は、そのほかの何んな雰圍氣にも打負かされない程に強いものとなるのであらう。ライヘンバッハが實驗したやうにその人の靈的放射體の强さは、その人の感情及び心的狀態と共に增減するのである。だから吾等は全感情、全心的狀態をあげて、神に打ちひたり、おひかりに打ち浸らねばならない。

（大正、十四、六、二十四）

ある對話

伊藤忠兵衛

イ、もとめる聲、この聲があまりに多いが、昔からたえまなくこんなに人が叫びつゞけて來たのだろうか。

ロ、無論いつの時代にもそうだつたろう、エデンの木の實が喰われてから……………

イ、………………

ロ、でも叫びのかたちは變化するね、時の流れによつて支配される、其聲が世相を示すという譯だ。

イ、というと。

ロ、求めるものにパンもあれば、本もあつたろう、直接行動が自由だつたある時代には一城一國をもとめる大きな運動が續いた様だ、しかし近代人の特長は叫びのうちにりくつがうまく伴う様になつて來た、普選要望も、平等運動もたれの耳にはいつても、もつともとして受取られる半面を備えてる、大聲はいつか俚耳にも入つて成功する次第さ、御治世のありがたさもあろうが、文句に筋みちが通つてるね。

イ、すじみちといえばこの次の總選擧は普選だから、いよいよとなれば選擧も大分かわつたもようが織り出されようね。

ロ、サア、それだ、このみちのくろうとも、しろうとも、何とも今の處目鼻がつかぬらしい、人格識見、主義節操などの人としてのねうちは千古かわらぬが、**選擧手段としての宣傳方法**、すなわち言論と文章などの戰鬪機關には大分革新が來ると思うね、しかし間違のないひけつは讀んでわからぬ字句文章と、耳

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

で聞いてすぐ判斷のできぬ文句でやつた演説はきいてに與える效力がよほど薄いと思う。つまり、選擧民が增した事は年齡と智識の平均が降下した事にまちがいがない、其年が若くなつた事は小學校からずつと口語體の文章に馴らされておるし、又形式的な字句の行列した文章では本當に心から心にひゞく事が出來ぬ、もう今年の町會の選擧で埼玉縣の田舍でカタカナばかりの文書宣傳をやつて立派に當選した議員がある、コンナ例はあたりまえの事だが、まだ選擧運動の關係者が氣づいておらぬのが不思議だ、ラデイオの宣傳は面とむかわぬだけに尚然りだ。

イ、なるほど、いわれを聞けばありがたや、で、ものをやさしく書くのならさしづめ吾輩も自信があるから議員候補者の資格が備つてるわけだね。

ロ、そうだ、田舍でも都會でも町内の床屋さんや驛前の車屋さんが議員になつて吳れてこそはじめて下水の通じのよしあしもわかろうし、橋や道ぶしんのできばえもねうちづけられるわけさ。

イ、そこで次にもとめる聲は何だろうね。

ロ、モウ豫言でもないが智識の機會均等、平等化の運動がきつと頭をもたげると思うね、此冬の議會にも何とか云う憲政會の代議士が此平等化運動に對しまじめなそして熱心な提議をされたが、これ等は本質的に國をうれうるの士だね。

ところがこの聲がプロレタリアトによつてさけばれぬのが不思議だ、思想雜誌とか主義者とかの出版者には其對象を文字の低い人におかねばならぬのに實際は書く人すら眞意のわからぬ様な事を並べて讀者を煙にまいてお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

る、『知らしむべからずして服せしめた』時代なら兎に角、もの事を了解せしめて味方とする運動にはアンナ事では本當の生命はない、今の思想界のこんらん、はき違え、は日本人の頭腦のよしあしでなくて、六かしい用字から來るさわりがおもである、この文字から來る盲斷が飛んだ、おそろしい結果を招く事になる。

次に成人敎育の大要素である徒弟敎育に今の樣なやり方では専門科學の簡易化よりも、文字の簡易化が第一で、此點は、英獨等の徒弟敎育と大變なちがいさ、英國のさる田舍町の補習夜學校を見たが、自國語の彼等には文字から來る質問もなければ困難もない、其機械自體の質問や、うんてんの實習をやつてる、それ等に讀ます雜誌にしても週刊の二三ペンスのものを敎科書の樣によんで、新しい發明などがあると在來のものとの相違を聞きたゞしておる、これが十五年前だ、二三年前に日本の同種の學校へ行つたが使用敎科書の文字の敎育に大半の時間を費し、生徒はかんじんの事柄の研究よりも字(漢字)に計り氣を取られおる、ツマリ紙の袢敎育だ、そこの先生に、敎科書に漢字をやめてカナかローマ字にして敎えるとどの位時間がちゞまるかと質問したら、この先生曰く、ソンナ事したら敎員の失業問題がおこります、機械の實際は生徒の方がよく知つてますからと、先生中々面白い事を云つた。

これは君、笑い事ではない、今日の日本の實際問題だ、こゝに智識をもとめる水平運動がきつと起る理由がある、今の日本では何よりも大切な事柄である、たとえば。

イ、一寸まつた、今まで聞いてる日本の敎育は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

中々進歩して居ると云うじやないか。

ロ、制度の上即ち形式的には立派だが内容實質の上から見て漢字がどんなにわざわいしておるか數字で示すと

⊙小學校六ヶ年間に敎える語彙（ヴオカブラリ）

日本　八、九〇〇

英國　三九、〇〇〇

⊙一〇〇の漢字を讀む丈けに要する小學校の學習時間は

日本　二六八分

英國　（一〇〇の單語を讀む丈け）三六分

⊙文部省が割りあてておる國語の時間

一週間に

日本　十一時間廿分

英國　八時間

⊙フリガナなしの新字を讀むに要する學年（讀む丈け）

日本　八ヶ年

英國　一ヶ年半

まづはつきりした處を話すとこんなものだ。

イ、なぜそんなに違ふんだらうね、何か間違じやないか。

ロ、まづ考えて見給え尋常小學校で敎える漢字は千三百五十字内外だが一つの漢字には續み方と意味の違いでいく通りにも讀まねばならぬ、甚しいのは海、生、人、日、など十幾通りに讀み分けねばならぬ。

それにアノとらえどこのないカナヅカイや、土地の名にしても神戸と書いて八通りもあり、又キカンと發音するもので十六七種もある、しらずしらず敎つてはおると云ふが、小供に與える苦しみと敎育の徒勞は實に大きなものだ、其しようこに日本の盲人さんは同じ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

小學校六年の國語の教程を三ヶ年ですむ相だ、英國では日本の小學校で教える語彙の六倍半も同じ年限で授ける、その筈だ、英語にも點字にも漢字がないから。

日本の教育は文字を教え、學ぶ事が學問であると永い間思つておつた、今でもよくわかつた人でもこの様な誤解が多い、吾々の先輩のY先生はうまい事を云つた『歐米の教育は音樂會場にあつて音樂を聞いておるのだ』し『日本の教育は音樂を聞かんが爲めに其入場劵を買つておるのだ』、即ち學問する爲めの文字の準備ばかりをやつておる、これでは日本が歐米同様に進む筈がないさ。

イ、ソレが實際なら吾々はジッとしておられぬではないか。

ロ、だから云つておるじやないか。

高尾山の歌

大正十四年五月五日高尾山に遊ぶ、その時の歌。

磯山松男

登り道

しげみ合ふ杉の木下の登り道踏むによろしもしめりふくみて

大きなる杉の木の間ゆ眼すかすや山の奥には靄こめてゐる

山鳥のこゑのよろしさ打ちあふぐ杉の大木のいただきにして

蕨と子供

早蕨の山のぜんまい束ねつつうるさいふやも子供がひとり

うちかけり山にあそぶといはなくに蕨をとりてうるさいふ子や

莖太にまがりさとのふさわらびは春山深くさぐりたるらむ

山の新綠

芽をひらく己が木の色のとりどりに山はみどりの浪うちて見ゆ

楢はしろく櫟は薄茶山栗は遅きとほろ色の淺みどりかも

山をまく幾重の木立とりどりに若芽ひらきて匂ひ出にけり

見るにただ心おどれりこの山もかの山もみな若芽ひらきつ

若葉の山幾重かさなる果てにして淺黄の山のかすかには見ゆ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

武藏野の菩薩境

——全生病院を御見舞して——

鈴木五郎

武藏野に初夏の陽は照り輝いて、見渡す限り廣々とした麥畑は黃金色の波を打つていた。樺の林の下の小徑を新井さんに導かれて、秋津驛を今降りたばかりの天香さんと私はぽつ〳〵と歩いていた。○さんからお借物らしいびろうど鼻緒のフエルト草履をはいて、茶色木綿のよれよれの兵古帶をお尻の上にチヨコンと結んで、大分調和の世界を超越した天香さんの後姿を眺めたり、遙か野末の林の上にホツカリと浮んだ雲の峯を見たり、空高く鳴いてゐるかと思ふと矢の樣に降りて來たり、又一直線に舞ひ上つたりしながら絕えず生の凱歌を擧げている雲雀の囀りを聞いてゐると、此の世はこのまゝ渾然とした一の平和境の樣に思はれる、到底この數町以內に世にもお氣の毒な數百の人々が、生に對する望みを全く失つて活きていられると云ふ樣な悲痛な事實が存在しようとは想像も出來ない。

しかし私等の覺束ない智識は、街を步いている時にも森を逍遙している時にも足下に無數のこうした事實を持ちながら、それを眼の前に突きつけられるまでは氣が附かずに居るのではあるまいか。——

やがて長い〳〵トタン塀に沿うて普請中の正門から若葉の繁つた構內に入つた。此處は東京府下北豐多摩郡東村山村に在る東京府及十一縣の癩病患者を收容した全生病院である。新井さんの御紹介で質素な應接室に通されて待つ程もなく光田院長さんがにこやかに入つてお出になつた。

天香さんは大分以前に宮崎安右衛門さんを通して御招ぎにあづかつてをりましたのに、遂い折がなく大變遲れ〳〵になつたことを御詫びなさつて、院長さんから日本が世界一の癩病國であること、全國で大略五萬人の患者が存在すること、癩病は遺傳ではなく傳染病であること、それであるから該患者は完全に隔離するのが必要であること、完全に隔離さへすればノールウエーの實例にもある通り比較的短年月の内に撲滅して仕舞ふことが出來ること、今全生病院には六百七十餘人の患者さんが入院されてをられること、全國に五ヶ所程こう云ふ病院があるけれども未だ到底不足であること、患者は病院内の生活の單調を厭い、家族は自分の家庭から癩患者を出した事を他に知られるのを厭うて入院を躊躇される傾向があつて困ること等いろ〳〵と御話を聞かせて頂いた。

やがて私等は白い上つ張りに白い大黒帽子を覆せられ足駄をはいて、院長さんの御案内で構内參觀から病室御見舞をさせて頂いた。廣袤數萬坪の構内には平家建の病舍が所々に散在して數棟の鷄舍豚舍もある。裏手は廣い畑になつていて、患者さん一人に四坪宛の土地が與へられて、生産された物は市價の六割安で病院に買上げて食料に供される。茄子や胡瓜や枝豆や麥の入り混つて作つてある畑で、輕症の患者さん方が默々として働いて居られる、其姿は餘りに淋しいものであつた。

病室は男と女とは棟が分れ、老人と子供とは室が分れている。十三四歳の子供達ばかり集つている室には一人づゝお父さん格の方が居られ、娘さんばかりの室にはお母さん格の方が居られる。夫婦の方は別棟に集つて一室づつ頂いて仕つていられる。凡ての處で輕症の方が重症

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の方の御世話を心から仕ていられる樣子は涙ぐましい程であつた。

天香さんは一部屋ごとに御見舞を述べ、脫ぎ捨てられた下駄を整えして行かれた。下駄には大底足先を突込む樣な橫皮が當てられていた。何の室の方も微笑を以て迎えて下さつた。殊に十三四の男の兒や娘さん達の無邪氣に微笑んだ眼の光が、私の胸に痛く泌みた。雙子の方でその方達が未だ四つ五つの時に、阿父さんが癩病で行き倒れていた人を氣の毒に思ひ引き取つて、死ぬまで四年間も養つて上げなさつた處、何時の間にやら子供さん達に傳染していて、今は二人共此處に收容されて、雙子の爲に症狀が不思議な程並行的に進むので、一つ貴重な研究資料になつている方もある。親が心からの慈悲を以てした最も善いことが、子供にとつては最も不幸を招いた結果になつた。人世が此の世だけで終つて仕舞うものならば、それは餘りに不合理なことの樣に思はれる。こう云う事實を目前に見せられる時に、私等は運命、因果、來世と云ふ樣なことを切實に考えずには居られない。

研究室には頭を半分に裁ち割つたのや、手首を切り放したのや、色々なアルコール漬がヅラツと並んで凄慘を極めている。

五百倍の顯微鏡の下に見えた松葉の樣な病源菌、これ一つが人間の運命を全く破壞する力があるのかと考へた時には、思はずゾッとせずにはいられなかつた。此の中で診察に繃帶卷換えに毎日働いて下さる方々の御苦勞の程をツクヅク感じさせられた、しかも二拾餘年間もこれを續けて下さつている方々が院長さん初め數名ありとの事を伺つては、全く現し身の人の業とも思はれず、唯々有り難く勿體ないことゝ心から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

拜まずには居られなかつた。

構内を一廻りして禮拜堂へ詣でた時には、患者さん方もポツ〳〵と集つて御出下さつた。禮拜堂は廣い疊敷きで、正面中央に神道の祭壇、左側に日蓮宗、右側に眞宗の佛壇がおまつりされてある。やがて堂の外にまで溢れて約五百人程の患者さんがお集りになつた時に、院長さんの御紹介で天香さんが演壇に立たれた。

『今日皆さんを御見舞に、こちらえ寄せて頂きましたについては、私にも些か覺悟する處あつてのことで御座居ます。私が皆さんの境遇になつた時に落着き切れるものがあるかどうか、それが無ければ皆さんに御目にはかゝれぬ。昨夜こちらえ寄せて頂く話の出ました時に、私は深く反省してみました。そして幸に私共の年來させて頂いて居ります生活の內に、それがあることを確信することが出來ましたので、今日はその話を聞いて頂きたいと存じます。

私共の生活から見ますと、物の値うちが世間の普通の見方とは全くさかさに見えます。人間の幸不幸が、世間の普通に云はれる幸不幸とは全く反對に思はれます……』

天香さんが玆まで話された時に、一座は水を打つた樣にしんとした。場所が場所、聽き手が聽き手のことゝて、天香さんも隨分緊張されていられた樣に思はれた。

『皆さんは一面から見れば何とも申し樣もない不幸な境遇に居られます。しかし又他面から見れば大變なお幸(しあわせ)であると申上げたい……』と、今の世間の生活戰が如何に慘虐な苦惱に滿ちたものであるかを、縷々數千言、樣々な實例を擧げて或は可笑しく或は悲しく興味深く說かれて、

『しかるに、あなた方は此處に入院されてお上の力に依て、何等生活には心を勞する必要なく暮すことが許されて居なさる、この事は誠にお幸であると云はなければならない……』と、靜かに云ひ切られて、懺悔と下座と愛とを實行する時には、如何なる運命の下に於ても光を見出し、幸福を創り出すことが出來ることを述べられ、

『猶ほ一歩進んで考へますと、皆さんが此處に御辛抱なさつていたさる爲に、皆さんの家族や親戚の方々は何の位重荷を降していなさるか譯らぬ。その點から見れば皆さんは、此處に居なさると云うことだけでも隨分大きな菩薩行をなさつていられることになるのでありますから、どうぞ此の自覺に生きて下さいませ。』

と、二時間餘りのお話を結ばれた。

杖を突いたり、友の肩に依つたりして三々伍々病舍へお歸りなさる患者さん方の口から、『あゝ好いお話であつた。』と云うつぶやきが洩れていた。みんな何とも言はれぬシンミリした心持でお別れした。

昇汞水をたゝえた溝を渡つて足駄の齒を消毒して事務室へ歸つた。『働く者の家』の夜のお集りの時間が迫つたので、そのまゝお暇して外へ出た。夕陽は武藏野の森や野を美しく染めて、この大自然の中に自由に立つことの出來る我が身の幸福さをシミジミ勿體なく思はせられた。不幸な方々は己が身を犧牲にして、私等自身が如何に惠まれたものであるかと云ふことを氣附かせて下さる大善智識であるとさへ考へられた。道すがらも、どうぞ如何に慘酷なる運命の下にあつても、その内に神の攝理を信じ、菩薩行の信念を悟り無垢の世界に甦らせ給へと心から祈念させて頂いた。

色々御多忙の中を一方ならず御世話下さつた光田院長さん、新井菊二、三上千代子兩氏を初め醫員看護の皆樣、患者諸兄姉に對して厚く御禮を申上げ、不行屆の處を深く御詫び申上げます。

—一九二五、七、四　鹿ケ谷にて—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（六）

松下吉衞

產業政策改革運動

從來、法制上の缺陷のために、協同組合運動が阻害されたことは一ト通りでなかつた。設立者達も大いに之れを憂ひ、その改革に久しく努力を拂つて來たが、遂に政府を動かして、一八五二年、產業及共濟組合法を制定せしむるにいたつた。

法制上の缺陷といふのは次ぎの二點であつた。即ち、その一は行政官廳の等しく採用せる契約制度であつて自由競爭に伴ふ弊害を極度に及ぼしてゐたことであり、その二は協同組合に關する法規が不備極まるものであつて協同組合は全然法律上の保護を受けられない立場におかれてあつたことである。

一についての實例を擧げるなら、裁縫職であるが、クリスト教社會主義者は彼等と接觸するや否や、實に驚くべき事實を發見した。それは、陸軍、警察、郵便、刑務所用の制服調製にやとはれてゐる裁縫職が最惡のスキッティングシステムの下に言ふにたへない苦痛を味はされてゐたことである。陸軍などでは、司令官等は部下の被服費として一定額を與へられながら、御用商人に勝手なものを調製せしめて、剩餘金を私したのであるが、それで何の監査も受けずにすんでゐた。謹嚴ラッドロウ如

きですら、公憤に燃えて『クリスト教社會主義者』誌上激越の文字をつらねて曰く、

『政府は請負制度により、物品の購入を最低の入札によつてなすので、それに關係ある凡ての事業の賃銀を生活費以下に下落せしめてゐる。しかし、かうすることは、決して經費の節約になりはしない。今や饑餓に迫られつゝあるもの、無數にあり、檢死と窮民埋葬の費用のみにても可なりの額にのぼるであらうし、また婦人にして困窮の結果賣淫を餘儀なくされてゐる者の爲めには之れを監視する警察官を增員せねばならぬ。授產場、窮民救助其他社會事業に要する經費は、最低生活賃銀に比してより高價である。見よ、人々は相率ゐて犯罪に走りつゝあるではないか。饑餓の前には法律はない。裁判所、刑務所は決して安價なものではない。政府の請負制度が、曾つて人間の奸智をもつて考察されたものゝ中、最も愚劣にして又最も惡逆であることは、以上の敍述で充分明かにされたと信ずる。しかも救濟策は極めて單純である。如何なる職業についても最低生活賃銀の算定は大して困難ではあるまい。官營事業の原則として、最低生活賃銀の支拂、仲介者廢止を斷行すべきである。吾等と志を同じうする者はよろしく議會に請願せられよ。』

議會請願のことは少なからぬ贊成者を得られた。『クリスト教社會主義者』誌に刷られた書式にならつて、讀者達はそれ〳〵代議士の手許へ請願書をおくつた（一八五一年三月）。この種の運動ではこれが開拓者たる榮譽をになふものであり、參加者の努力も非常であつたのであるが、目的は容易に達せられさうにもなかつた。

次ぎに協同組合の法律上の缺陷問題であるが、クリスト教社會主義者の運動が主力となつて働き、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一八五二年六月遂に產業及共濟組合法の制定を見ることが出來た。

この法律改正の最初の運動は、一八四八年五月、リーヅの報償組合によつて起され、その代表者が內相を訪問して大いに說くところあつたが、不幸にして他の協同組合員の賛同を得ることが出來ず、何等具體的の成果を見られなかつたのである。

然るにクリスト教社會主義者達は、當時名を知られてゐた辯護士や、代議士其他と密接な關係があつたので、かうした運動をなすには、非常に好都合であつた。即ち彼等は一八五〇年春、代議士アール・エー・スラネーに囑して、下院に於いてこの問題に關連する特別委員の任命を動議せしめ、ラッドロー、ニール、ヒユーズ、ミルバンク、クーパー、クラークソン、ロイド・チョーンズ等の諸氏或は委員會の證人として奮鬪し或は議員の說得に不斷の努力を拂ひ、當初さのみ有望のやうには感ぜられなかつた院內の空氣もために動かされ、審議二年有餘にして、遂に彼等の主張にきゝ、產業及共濟組合法を通過せしむるにいたつた。該法は、原案に比すれば肝要の條項に於いて著しく修正された點があり、幾分ものたりない感もないではないが、これによつて全般の協同組合運動が確乎たる地歩を與へられることになつたので、見樣によれば、十九世紀を通じて最も重要なる社會的立法の一だといふことが出來よう。

この產業及共濟組合法制定の結果は、協同組合運動全般に亘つて著しい影響を與へたと共に、設立者會の組織にまで變化を及ぼさずにはゐなかつた。從來、協同組合が合法的のものと認められなかつた間は、精神的經濟的の後援者なしに、協同組合を企てようとする勞働者が殆んどなかつたので、ク

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

リスト敎社會主義者等は、內部の委託金私消に對しまた外部からの法律的干涉に對して、援助者保護者の地位に立ち、彼等をして安んじて運動の從事することを得しめた。

然るに、今や、事情が一變し、協同組合は自立することが出來てまた多くクリスト敎社會主義者の手を勞せざるにいたつたので、設立者會は組織再建の問題に直面し、種々の論議が戰はされた。ニールは、もと〳〵クリスト敎社會主義といふ名を好まなかつた。設立者會の基礎をクリスト敎的に限定しては、運動の發展を期することが出來ないし、區々たる名稱ごときに拘泥するのは要なきことであり、モウリスを首領と戴きラッドロウを會員の筆頭としてゐる以上、設立者會の本質がクリスト敎的であることに變りがありやう筈はないのであるから、此際組織を改めて、公然クリスト敎的のものであると名乘りをあげないがよいとなした。

ラッドロウは、またこれに反して、クリスト敎を何物にもまして重要視し社會を實質上さらにクリスト敎化するためにクリスト敎の社會化を望み、協同組合に對しても彼れが此の目的を促進する意味に於いてのみ値打づけんとした。『クリスト敎こそ協同組合運動を靈化向上せしめてその單なる營利事業に墮することなからしむる唯一の力であるとするなら、この信仰を公然表明すべきであり、かくして初めて眞の協同者が得られる筈である……』と彼れは言つた。

この問題の決定には短かゝらぬ時間を要した。設立者協會は組織改造の要項を示した決議文を作製し、その細目は委員會に一任することにした。委員會に於けるモウリスの態度は極めて溫健中正を得たものであつた。モウリス自身はクリストをもつて各人の長であるとなす考に變りはないのである

が、信條の宣誓の拒否によつてのみその人のクリスト信者であるかどうかを判定せんとすることを喜ばず、クリストの仕事をなしつゝあるかぎり、ニールはもとより、ロイド●ヂョーンズすら、その信者であるとなした。されば、事實協同の仕事に從ひつゝある同志の一人でも爲めに失はれるおそれのある政策には、彼れとして贊成することが出來ず、設立者會の趣意書作成に當つても、クリスト敎々理に好感をもたない人々の感情を徒らにかき亂すが如き恐れある用語は努めて之れを避ける方針にした。

モウリスのかうした態度は自然ラッドロウを窮地に陷れた。しかし委員會最終日の朝——一八五三年三月九日——モウリスがラッドロウあてに書いた長い手紙の一節にかう言つてある。

『設立者會のクリスト敎的特性を表明せる辭句を趣意書に挿入することは明かに委員會の權限を索るものである。併し、君にして修正案を提議し委員會の贊成を得られるなら自分は寧ろそれを悅ぶ。』

以つて彼等の友情の如何に温かであつたかをうかゞひ知ることが出來よう。

委員會は遂に設立者會の名稱を產業及共濟組合振興會と改め、その規約の序文中に次の如き綱領の發表があつた。

一、人間社會は多數の人員より成る結合體であつて、決してそれは鬪爭分子の集合體ではない。
二、眞の勞働者とは同志の誼につながるものでなければならず、競爭しあふことは許されない。
三、交易の指導原理は正義てなければならず、利己心であつてはならない。

新組織による振興會は、この根本的觀念にもとづいて協同組合運動に能ふかぎりの貢献をなさんとしたが、その進路には以前にも增した困難が橫つてゐた。それは經濟的缺乏から由來したのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謹告

拝啓　同人機關誌『光』は從來東京宣光社名義にて發行致居候處今度宣光社の組織を改め發行及編輯の事務分擔を左記の通りに變更いたし候間さやう御諒承たまはりたく此段謹告仕候　頓首

大正十四年二月

伊藤猛　西田天香
西田保太郎　小此木渾沌
中桐確太郎　松下吉衛
（いろは順）

發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五　回光社内　西田保太郎
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

編輯人　東京市本所區林町二ノ七八　松下吉衛

附記
誌代は　京都市回光社へ
玉稿は　東京市松下吉衛へ

編輯人から

本誌わ一燈園の同人光友の機關誌たると共に、一燈園生活そのものに對する自由眞摯な評壇たる使命を擔いたいと思います。もとよりこれ論を好むがためにあらず、吾等が本願の成就を祈ればのこと。されば、掲載記事に對する異見わ皆さんから腹蔵なく發表していたゞき、私共の生活を、この方面からも錬りに錬つて、獨斷論に禍されることのない生命力の漲つたもの、最も嚴正な意味の批判に堪えるものに磨き上げ、人類愛の生活化と社會的正義の確保と兼ねて文化諸相の調整とに聊か貢献したいと願つています。（松下）

定價　一ケ月分　金二十錢　一ケ年分　金二圓四十錢　（郵税共）

大正十四年八月十日印刷納本
大正十四年八月十五日發行　（第四十四輯）

發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五　回光社内　西田保太郎

編輯人　東京市本所區林町二ノ七八　松下吉衛

發行所　京都市烏丸頭小山下總町五番地　回光社
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

小川未明選集

豫約募集

▲内容——著者が初めて日本の文壇に權威を示したる新ロマンチシズム時代より、中頃人道主義時代を經て更に最近社會主義時代に至るまで、前後二十餘年間に亙る苦心の創作、童話、小品約一千八百篇のうちより、最も代表的なる傑作、秀作、著者會心の作二百三十篇を拔き取り、更に文壇の權威たる吉江喬松、中村吉藏、藤森成吉、秋田雨雀、平林初之輔五氏の嚴選を經て全六卷に收輯す。

●申込期日——九月十五日限り

▲體裁——四六判總布製天金美本、表紙及び見返しの意匠は平福百穗畫伯の創意に成り、更に著者獨特の趣味を加味して瀟洒、芳醇、清新の美を極む。

▲刊行——全六卷とし、大正十四年九月第一卷刊行、引續き毎月壹册づゝ刊行し、向う六ケ月を以て正確に完結せしむ。

▲頒布——豫定部數を三千部とし、豫約者に限り頒布す。斷じて選擇分賣の需めに應ぜざるは勿論、締切期日內と雖も豫定部數に達したる時は申込を謝絕す。

▲申込——豫約申込金は三圓とす。申込金は申込と同時に、或は五日以內に必ず送金の事。五日以內に送金なき時は申込を取消す。

▲會費——全額金十九圓二十錢。毎月五日限り金三圓二十錢づゝ五ケ月間御拂込の事。申込金は最終月の會費に充當す。

▲一時拂——全額拂込に限り金十八圓に割引す。

▲期日——申込は九月十五日限り、會費拂込は九月二十日限り。

▲送料——會費拂込の際左の送料を加算されたし。（壹册に付市內十五錢。內地三十錢。滿鮮臺灣五十八錢。）

内容見本進呈

株式會社 文化學會出版部

東京小石川小日向臺町　振替東京七二八〇

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN